

#### 第4回西脇知事と行き活きトーク in丹後

日時：平成30年10月21日（日）12:00～

場所：天橋立ホテル エントランス

○司会 それでは、皆様、お待たせいたしました。平成30年度府民意見交換会in丹後、西脇知事と行き活きトークを始めさせていただきます。

さて、京都府では、丹後地域振興計画を含む、新しい総合計画の検討を進めているところです。この検討を進めるに当たり、府民の皆様と知事が意見を交わすため、府内5カ所で府民意見交換会を開催することとしております。本日は、ここ、丹後きものまつりの会場におきまして、「丹後の今後の地域振興について語り合おう」というテーマのもと、パネリストの皆様と知事が意見交換を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の内容については、後日、京都府の広報紙、ホームページなどで御紹介させていただきますので、御了承願います。

それでは、まず初めに、京都府知事、西脇隆俊より御挨拶を申し上げます。

○西脇知事 皆様、こんにちは。京都府知事の西脇でございます。

今日、丹後地域振興計画も含めて、新しい総合計画の策定に向けた意見交換会、大変大勢の方に御参加いただきましたことに、心からお礼申し上げます。見ていただければ分かりますが、私も、丹後きものまつりin天橋立において、松並木のパレードにこの格好で参加させていただきました。似合っているかどうか分からないですけども、似合っていたら拍手をお願いします。ありがとうございます。

今日は本当に天候に恵まれたんですが、今年の夏は豪雨、それから台風ということで、この丹後地域でも本当に多くの災害を受けましたし、道路の寸断が起きて、皆様にも御迷惑をおかけしたと思います。6月補正、9月補正で、予算の方は計上いたしましたけれども、復旧復興はまだまだこれからでございますので、引き続き取り組んでまいります。御協力のほどお願いしたいと思います。

私は、「安心」「いきいき」「京都力」という3つのキーワードで公約を掲げ、選挙戦を戦いましたけれども、それを実現するための新しい府政の指針ということで、今、総合計画の策定に取り組んでおります。選挙中から申し上げておりましたけれども、本格的な人口減少社会は、日本が初めて経験する社会でございます。それから「2025年問題」。団塊世代の方が全部、後期高齢者になる高齢化の問題、それから災害等、課題がいっぱいあ

ります。この丹後地域は、海の京都ということで、駅を中心にインフラ整備も進みましたし、高速道路も京都縦貫が全通したという、そういうインフラも整いつつあります。再来年は、日本遺産にもなっております丹後ちりめん300年ということで、そうした観光資源、いろんな丹後地域の強みを生かしながら、課題をどう克服していくのかということで、計画づくりをやりたいと思います。10年後、20年後がどういう社会になって、どういうことを実現していこうかということ、なるべく幅広く府民の皆様の御意見を伺いたいということで、この意見交換会を開催させていただきました。

今日は限られた時間でございますけれども、意見交換をさせていただき、また皆様からの御意見を賜りながら、計画づくりに反映したいと思います。どうか今日はよろしく願います。ありがとうございます。

○司会 本日は、遠路はるばる衆議院議員の井上一徳様にお越しいただいております。今日は、ありがとうございます。

また、地元の市長をはじめ、会場にお越しいただいておりますので、御紹介をさせていただきます。

城崎雅文宮津市長です。梅田純市京丹後市副市長です。吉本秀樹伊根町長です。山添藤真与謝野町長です。

また本日は、京都府議会議員の皆様にも会場にお越しいただいておりますので、御紹介させていただきます。

京丹後市選挙区の巽昭様です。宮津市与謝郡選挙区の中島武文様でございます。御多忙の中、今日は皆様、ありがとうございます。

本日のコーディネーターは、丹後地域戦略会議座長で、京都府立大学副学長の宗田好史様をお願いしております。

それでは、これからの進行は、宗田様をお願いしたいと思いますので、よろしく願います。

○宗田好史 御紹介いただきました、京都府立大学の宗田でございます。

ここからは私が進行を務めさせていただきます。今日は知事の御挨拶にもございましたとおり、京都府の新しい総合計画に関しまして皆様方の御意見をお伺いしますが、特に地場産業である丹後ちりめん、着物の振興、人材確保、そして今、急速に伸びております観光振興について、4人のパネリストの皆様からお話をいただこうと思っております。

今日、御登壇いただいております皆様方を御紹介します。まず、丹後織物工業組合理事

長で、今日の丹後きものまつり実行委員会の委員長をされている松本博之さんでいらっしゃいます。お隣が、宮津商工会議所会頭の今井一雄さんでいらっしゃいます。それから、西脇知事を挟みまして、京都北都信用金庫専務理事の京崎操さんでいらっしゃいます。それから、京丹後市移住支援センター「丹後暮らし探求舎」相談員の小林朝子さんでいらっしゃいます。

では、お一人ずつ自己紹介を含めて、お話を頂きたいと思います。松本理事長からお願いします。どうぞ。

○松本博之 松本でございます。丹後織物工業組合のことを丹工といいます。西陣織物工業組合のことを西工、着物の集散地である室町、それから帯の集散地である西陣というふうに業界では呼んでおりますので、そういった表現にさせて頂きたいと思っております。

この丹後地域のちりめん産地は、室町、西陣の下請と申しますか、そこで取り扱う商品を製造して栄えてまいりました。いろんな理由があるとは思いますが、時代の流れと言いますか、和装業界が大きく減少してまいりました。サプライチェーンであるところの我々は川上に当たるわけですが、川上に大きくしわ寄せがきて、今、起こっている状況というのは、従事者の高齢化、それから後継者不足、それから機械等の老朽化、これらの問題を先送りして、今日に至っているというのが、現状かなと思います。

そういった中で、2年後に2020年という、我々の業界では「丹後ちりめん創業300年」、それから「東京オリンピック・パラリンピック」も開催されるということで、国を挙げて大きなメモリアルな年になるということでもあります。その年を契機として、我々が今後どういった産地であるべきかということには、一度立ち止まって考える時期に来ていると考えております。

そういった中で、丹後ちりめん創業300年事業実行委員会というのをやっています。丹後と言えば着物、という切り口で語られることが多いですが、我々としては、着物にとらわれず、「織り」もしくは「布」といった切り口で語られればいいのかと個人的には思っています。その中でも、和とか洋とかを区切らずに、全てを包含するような形で議論されればよいと考えております。

なかなか具体策が見つからず今日に至っておりますけれども、いずれにしても、我々だけでなしに、地元の行政、それから他の業界団体の人と一緒にやっていかなければならないことがたくさんございます。その中で、京都府さんが横串を刺して、協力して頂きたいと思っておりますし、常に協力をいただいております。期待をしておりますし、感謝も

申し上げて、私のお話とさせていただきます。

○宗田好史 ありがとうございます。

着物にこだわらずということと、和と洋の区別なくという形で、かなり思い切った御発言をいただいたのではないかと思います。そこから何か、丹後の織物を中心とする機業の未来を見る1つのきっかけになるのではないかと思います。

それでいいますと、今度、今井さんに観光のお話をさせていただこうと思うんですが、今、宮津、丹後地域に海外からのお客様が相当増えています。天橋立も、欧米の方あるいは東アジアの方たちが相当来てる中で、ちょっと今までとは違った動きになっているのかもしれない。それで、今井会頭御自身には、天橋立の世界遺産登録もそうですし、宮津湾、伊根湾の美しい湾クラブの活動など、そういう観点から御意見を賜りたいと思います。

○今井一雄 宮津商工会議所の今井でございます。今、テーマをいただいたんですけど、結論的に言うと、これからを担っていく若いリーダーの育成をしていかなくちやいけない。それが一番大きな課題になるかと思います。少子高齢化というのは、これはこの地域だけの問題ではありませんので、そういう中でやっぱり人材育成のようなことも必要だと思っています。

この地域においては、京都府のいろんな御支援をいただいたおかげで、ちりめん回廊と北前船についての日本遺産の2つの地域があります。海軍の町、舞鶴を入れれば3つこの地域には日本遺産があって、「海の京都」でもあります。これは、今後の観光のためにも大きな動きであって、これをどう生かしていくのかということをお我々は本当に真剣に考えていかななくてはならない。市町村の壁を越えていろいろやっていかないといけないし、議論しないといけない。まだ、その壁が見えていても仕方がないというように思っております。

また今、経済界としては、行政にぜひやって頂きたいということで、2年前から山陰海岸ジオパークが認定されています。これについても、鳥取、豊岡、この丹後の経済界、商工会議所、商工会等で今、勉強していこうということで、年に一度、会合を開いております。これはやはり、人の交流や観光交流、そういうものがつながっていかないといけない。経済界が先に手を上げてやっていこうということで、来月、豊岡のほうでの会合を持つようにいたしております。日本遺産、また山陰海岸ジオパーク、そういうものをどうこれから経済につなげていくのかというのが、我々、産業界にしても大きなテーマだろうと思っ

ております。

また、先ほど宗田先生からお話をいただきました、天橋立を世界遺産にする運動、平成19年から、もう11年目になります。僕はしつこくやっていきたいという思いしかございませんので、生きているうちにできるかどうか別にして、何せ頑張るしかないということでやっているわけです。そういう中で「世界で最も美しい湾クラブ」というのがフランスに本部がありまして、ユネスコの後援団体ですけども、そちらに、京都宮津湾・伊根湾クラブという名称で入会をさせていただきました。これについては、5年前から運動してきたわけでありまして、日本には5つの湾クラブが出来ていますが、そのうちの1つとして入らせていただきました。

フランスは4つ湾クラブに入ってますけども、5年前に、モンサンミシェル湾という、沖合に島のようにぽっと浮かぶ世界遺産の修道院ですけども、その湾とも協力し合っていこうということで姉妹湾連携の調印を交わさせていただきました。このことも、これからの大きなインバウンドの中で、我々の地域でどのように観光客を呼び込むかということにつなげていきたい。まだパイが少ないですけども、この地域もインバウンドが倍々ゲームで増えてきています。これにより一層力をつけていくためにも、モンサンミシェルとの提携を1つの起爆剤として地域をどんどん使っていきたい。また、モンサンミシェルは世界遺産になっておりますので、天橋立も世界遺産として登録ができるように、海を渡る聖地として、観光産業として、この地域とともにやっていきたいと思っております。

その中で1つお願いがございますけども、皆さん御存じのミシュランガイドブックというのがございます。今年も、京都、大阪プラス鳥取ということで、ミシュランガイドブックが出ました。今、この地域も盛り上がってきているんですけども、ミシュランガイドブック2020年ぐらいを目標に、ぜひ京都、大阪、プラス「もう一つの京都」という形で、要するに、海の京都であったり、森の京都であったりするわけですけども、ミシュランガイドブックにぜひ出してもらいたいというような夢を持っております。この地域は大変おいしい食べ物屋さん、また旅館もたくさんございます。ぜひそういう所をミシュランガイドブックに掲載していただけるように、ぜひ知事にはお願いをしておきたいということでございます。

○宗田好史 ありがとうございます。

赤ミシュランというのは、食のリストであります、それ以外に青と緑がありまして、

ガイドブックとしても天橋立を中心に紹介してもらえればと思います。そして次は「食の京都」でございますので、ぜひ載せていただければと思うんですが。

世界で最も美しい湾クラブに加盟しているモンサンミシエルについて紹介いただきましたが、日本で最も美しい村連合には伊根町も入っております、京都に並んでこれだけ美しいところは数少ないと思うんです。日本で最も美しい京都府の知事になられた西脇知事ということで、今、2人のお話をいただいた上で、振興計画にかける思いを伺いたいと思います。

○西脇知事 松本理事長には、本当に意欲的なお話を聞かせていただきました。京都というのは、もともと歴史と伝統でできていますし、長く地域に根付いた企業があるわけですけど、それがなぜ続いているかという、守るべきものと改革すべきものを常に明確に意識して、チャレンジ精神でやってこられたということです。丹後ちりめん創業300年の節目を迎えられるにあたり、和と洋にとらわれずにというので、これは非常に素晴らしいと思います。機械の老朽化と後継者不足のところにつきましては、4月に就任してから織物振興参事を丹後広域振興局に配置しました。人をつけたからどうかということではないんですけども、特に機械の老朽化をすごく心配しております、修復不能にならないように、これは京都だけじゃなくて、日本全体のために必要だということで頑張っていきたいと思っています。2020年は、まさにメモリアルイヤーになるので、それに向けていろいろ協力してやっていきたいと思っています。

それから、今井会頭のお話のモンサンミシエル湾の代表者の方には、私も協定を結ぶ前日にお会いしました。私、本当にモンサンミシエル湾行きたくて、行ったことないんです。天橋立は、知事になってから5回以上来てますからね。モンサンミシエル湾と天橋立が、最も美しい湾として同じ価値があるということであれば、まさにその価値を我々が受け継ぐべきだと思います。そのときモンサンミシエル湾の代表の方が、写真集を見せて下さいましたけど、全体の中でもモンサンミシエル湾の位置づけがそんなに大きくなかったんですね。それ以外の写真のところ、素晴らしくきれいなところがありました。それを見ると思わず、モンサンミシエルのついでに、他の方にも行きたくなりました。山陰海岸ジオパークの話もございましたけれども、この地域をもうちょっと大きく捉えて宣伝したほうがいいのかと思ひまして。

もう一つ思ったのは、あんまりおいしいものはなさそうやなと。ほとんど食が書いてなかったんで、これは絶対、こっちのほうが勝つわけでございます。ミシュランの話につい

ては、結構、金と手間がかかることもありますので、よく相談してチャレンジしたいと思っています。よろしくお願いします。

○宗田好史 ありがとうございます。

知事の御発言に、口を挟むようで大変恐縮なんですが、モンサンミシェルはムール貝のフランス最大の産地になります。

○西脇知事 失礼いたしました。

○宗田好史 ここにはトリガイがごございますので、トリガイは京都府の水産課が大変力を入れて、日本一のトリガイをつくっております。トリガイとムール貝ということで、食文化のフランスと日本の交流というのもあるかと思います。

併せて、さっき今井代表が、鳥取とのつながりのことをおっしゃいましたが、大変重要な課題がございまして、峰山、久美浜と豊岡、そして鳥取までという、高速道路について近畿のミッシングリンクがございまして、ぜひ観光振興のためにも、お力を発揮していただければと思います。

次のテーマに移りますが、京崎さんはまさに人材発掘のプロでいらっしゃるし、女性の活躍する場を一所懸命つくり、それから全国からこの丹後に人を集める長年の努力をされていますので、その人材の話をいただければと思います。

○京崎操 私はこの宮津に本店がございまして京都北都信用金庫の専務をしております京崎と申します。日ごろは、皆様に大変お世話になっておりまして、ありがとうございます。

私は、人事それから総務関係の担当をしておりますし、職員がいかに生きがいを持って働いているかというような取り組みを一所懸命、日々行っているところでございます。そして、当銀行は今10カ年長期経営計画を掲げまして、地域活性化の実現というのをやっております。その中で、お取引先の売り上げが伸びるためには何でもやろうということで、交流人口を増やすことによりまして、京都北部を活性化したいという思いです。今日も理事長が来ておりますけれども、トップセールスで全国の信用金庫に、ぜひ年金旅行や団体旅行に来てください、とパンフレットをお配りしたり、いろんなところでお願いをいたしております。今年度も4,000人ぐらい、全国の信用金庫の団体旅行を誘致させていただいております。

このように、地元の金融機関といたしまして、さまざまな取り組みを行っているわけですが、私どもはお客様の課題解決、これをやはり一番に考えておりまして、最近いろんなところからお客様から「人手不足なんだよ、誰かいい人材はいないかな」という御

相談も非常にたくさん受けております。確かに、この丹後地方といいますのは、だんだん人口も減少しております、高齢化もどんどん進んでおります。特に、私たちが頑張って伸ばしてほしいなと思っております観光・宿泊業、こちらのほうの業界では、やはり土日が休みでないとか、変則的な勤務だというようなことで、非常に人材の定着率が悪いようでございます。

そして、どうしてもお勤めされている方が60歳以上の高齢化となっておりますし、若い方々がなかなか定着してくださらない。1年間で新入社員の半分がやめてしまわれるという現状をお聞きしておりますので、この点について、やはり住環境を整備していくとか、京都府の方で寮をつくったり、それから社宅なんかの補助をしていただけるようなことができればいいのになと思っております。

それから実は、当金庫もなんですけれども、大学を卒業して地元へ戻ってくる学生さんが、昔は長男だから戻りたいということで、ほとんどUターンで戻ってきてくださいましたが、今は、Uターンしてくださる学生さんも少なくなってまいりました。面接しましても男の方がなかなか帰ってきてくださらなくて、当金庫の場合、自然体で受け入れてるんですけれども、女性の学生さんのほうが非常に多くなっております。7割ぐらいは女性が入ってきているという状況がございます。ですから当金庫も、全職員の4割以上が女性でございます。ですからこの女性の力を何とか発揮して頂きたいなと思って、いろんな取り組みをしております。男性と同じように営業職、融資の係にも出てもらって、男性と同じように力を発揮してもらいたいなという取り組みを行っております。

この丹後地方といいますのは、丹後ちりめんの地場産業を支えてこられたのは女性の力でございますよね。女性が皆、機織りで地場産業を支えてまいりました。ですから、私は女性の力って大きいと思います。その力を発揮していけるような、職場づくりに頑張っておりますので御協力お願いいたします。

○宗田好史 ありがとうございます。今、若者で、30歳くらいまでに地域に戻ってくるのは男性のほうが7割、女性のほうは5割、6割ぐらいですが、丹後は女性のほうが戻ってくるというお話でした。

皆さん、御存じだと思いますが、今、息子夫婦と暮らしておられる高齢者よりも娘夫婦と暮らしておられる高齢者のほうが3倍、4倍多いんです。だから、長男だから息子だから戻ってくるというのはもう昭和の話であって、娘だから地元に戻ってきてくれて、親と一緒に住んでくれる、近くに住んでくれると。そのために、いい給料がもらえる職場は、



北都信金があるとか、観光産業とか織物産業があるというのは、人材の流れにもつながっていくことだと思うんですね。

あと丹後は海の美しさ、自然の美しさなんかで全国からIターンで来てくれる人がいます。小林さんはまさにそういう方ですが、北海道旭川の御出身で岩手大学を御卒業されて、京都にあこがれて京都の設計事務所で働き、今、この丹後ということですよ。そういった意味でも典型的な、こういう人材こそ丹後に集まってほしいという、そういう立場から、こうすればもっと、お仲間が増えるというお話をいただければと思います。

○小林朝子 今までのお三方に比べるとしゃべり方が下手なのですが、京丹後に来るまで、本当にこういうところに座るような立場になるとも思わず生きてきました。京都市にいたときは、9年間勤めてたんですけど、百何十万人分の1の暮らしをしていたんですけど、丹後に来たら、とにかく2市2町合わせても何万分の1で、移住してきたというだけで話題になって、どこかに行くたびに「ああ、うわさの」と言われるんですね。人の近さというのが、本当に丹後の魅力じゃないかなと思っていて。私の移住のきっかけも「人と人の近さ」だったんですね。

京都市もすごく楽しかったです。都会も好きですけど、ただ、人との出会い方がよくわからなくて、会社の外の知り合いがそんなになかったということがあります。丹後に来たときに、ありとあらゆる職業の人、老若男女の幅の広い人たちと交流できるようになって、それに魅力を感じて京丹後市に移住してきました。

移住後、今の仕事をしているのは、私が丹後に住む人たちにやってもらったことをやりたいなと思っています。日本海側って、サスペンスドラマのイメージみたいなしか持ってなかったんですけど、初めて丹後に来た日が、今日みたいに晴れていて、沖縄みたいに海がきれいだというのに衝撃を受けたのと、あと出会った人たちが、また次においでよというのをすごいいっぱい言ってくれて。少子高齢化で、何かちょっと暗いイメージがあった丹後が一気に明るくなって丹後に来たんです。

とにかく、人のつながり、自然がきれいというだけじゃなくて、ここの人たちはこういう人たちなんだよというのを、なるべく移住希望者の人に伝えるようなお仕事をさせてもらってます。やっぱり、京都市内に比べると全然仕事とかが少ないんですけど、人のつながりの中から、自分はこういうことができるんじゃないかというのをぶつけて、丹後を選んでくれる人たちが今多くなってると思います。

私は京丹後市に住んでいるんですけど、伊根町、与謝野町、宮津市の方、すごくたくさ

んの人に支えられて暮らしてこられていると思うので、移住希望者の人にも、私が支えてもらっている方たちを紹介して、ここに来て全全然、寂しくないし、可能性があるよということ伝えていけたらなと思っています。

○宗田好史 ありがとうございます。相談員として、ぜひそういう活動をして、どんどん若い人を呼び込んで欲しいと思います。今、お話を聞いて、知事にどう振ろうかと考えていたんですが、ふと思ったのは、知事の公約の「いきいき」というのは、今、小林さんおっしゃったような社会をつくることだったかなと。遅ればせながら気づいたんですけど、地域って、多分こういう人のつながりが生まれる部分かもしれません。

○西脇知事 ありがとうございます。まず、人口減少社会が大変だというのは当然ですけど人材不足対策も大事です。京都府全体の合計特殊出生率というのは全国44位と非常に低いんですが、北部は合計特殊出生率は比較的高い状況にあります。でも、高校を卒業したらほとんど外へ出ていくということで。市町村さんと意見交換したら、子供は生まれるけど、大学行くとき出ていってしまうという。一体、何のために子育て環境を整えるんだというような声が出るんです。そのために私は、京都府の北部地域への人材供給のための支援の大きな柱の1つとして、府内の大学全部と就職支援協定を結びまして、何をすればいいのか検討しています。

先ほど京崎さんのほうから、新入社員が1年で半分やめるとありましたけど、全国的に平均しても3年以内に3割の人がやめるということです。これはどう考えてもやっぱり、就職のときのミスマッチがあると。それをなるべく減らしたいんですが。

もう一つは、本来、自分はこういうことがしたかったんだといって仕事を辞めるケース。小林さんも、実はそういうことですよ。そもそも大学4年間で、人格を固めるのは難しい時代になってるんじゃないかと。社会人やってるうちに、やっぱり僕はこういうことをしたいというときに、どういうことが起こってるかという、統計でも結婚しない率が高くなり、それから初婚年齢も高く、子供持たない率も高くなる。大都市では、国全体の合計特殊出生率を下げてるという状況がありますが、ひょっとすると就職のミスマッチが結構あって、本来ならば農業でもいいし、地域活動、収入はそう高くなくてもいいという人が結構おられて、それを途中からでも戻していけるという仕組みができればいいと思います。その究極の形が移住ですけれども、就職という観点に立てば、ミスマッチというのを整えていけば、一人一人がより幸せになっていけるかなということ。何をすればいいのかというのについては、ご意見いただければと。

京崎さんの信用金庫では観光客誘致もされているというのは、すごいですね。他のことも、どんどんやらはったらええん違うかな、と思いますので、よろしくお願いします。

○宗田好史 ありがとうございます。

先ほど京崎さんが、住まいのことを京都府から支援して欲しいということをおっしゃってました。ひと言、人材確保に関して具体的にお願いします。

○京崎操 私どもの金庫では、以前は地元だけで採用しておりました。それで十分だったんですけども、最近では、他府県からも採用しております。なぜそれができるようになったかといいますと、私どもでは、5年間、住宅のアパート代を補助しております。5年間、補助しておりますので、ほとんど自己負担なく来ていただける。とある峰山の方の企業様にも伺いましたら、寮をきちっと整備をして、コンビニがある、とても便利なところにきれいな女性用のマンションを借り上げて、人材確保をしているということでした。そういうことについて、行政の方から補助をしていただけたら嬉しいという声も聞こえておりますので、ちょっとお願いをしてみました。

○宗田好史 ありがとうございます。

実は、京都で25年、30年ぐらい前からできている町家レストランですが、あれは外から来た若者が、安い家賃の町家を借りて創業しています。あれも信用金庫が支えてるんですね。いわゆる都銀に行ってもなかなか貸してくれない。国民生活金融公庫の新規参入貸付でちょっと引っ張って、それを信金マンが世話をしてくれる。丹後でも、与謝野町などで、ちょっとした飲食店を開くとか、伊根町でも、まだ使えそうな町家に泊まってもらうとか、民泊とレストランをつくっていただくというようなことをすると、もっともっと若い人たちが活躍するのではないのでしょうか。モダンなアパートをつくるんじゃなくて、古い町並みを生かしながら、京都らしくという流れを北都信金さんの御支援のもとにできるといいなと思います。

小林さんはたしか、その町家とかについて、京都で勉強されてたんですね。京都へのあこがれとか、そういう側面がありましたらお願いします。

○小林朝子 すみません、話の流れ、腰を折るようなんですけども、実は京都にあこがれてということではなくて、仕事が決まったからというのがあったんです。もともと農業土木の仕事をしていて、京都に住んでみたらすごいよかったので、休日は、今おっしゃっていた町家カフェとかを渡り歩いていて、ここで永住してもいいかなとは思ってます。

○宗田好史 これからは風景というか、美しい景観をつくっていく時代になっているので、

農業土木の人が活躍する場面って来るかもしれません。

引き続きまして松本理事長に、人材、あるいは観光に関してお話をと思います。

○松本博之 丹後ちりめん創業300年の事業の中で、総合プロデュースに東京の方2名にお願いしています。その方の紹介でシンスケさんという、フランスで著名な日本人デザイナーの方がおられまして、東京で丹後のロゴマークの発表会がありました。その席で、ヨーロッパに打って出るためには何が必要ですかという質問が出たのですが、「日本人はいいものをつくれれば売れると思ってるんだけど、そこにプロデュースがなければ何も売れないよ」と。まさにこの丹後は、みんないろんなものつくって、いいものつくって食材もいいものがある。それはわかるんだけど、もう少しプロデュースしたらどうだというお話でした。丹後の人間といえば非常に口下手で、前に出るのが下手で、ちょっと一步引いたところがありますので、今の小林さんのように外からの力を入れて、そして地域として打って出ると申しますか、そういう地域になればいいと思ってます。今、災害が多い国になっていますが、小松左京の「日本沈没」の中でも、丹後半島が一番最後に沈むというふうになっておりますので、日本で一番安全なところだということもあわせてPRしていただければ、非常にありがたいと思っております。

○宗田好史 ありがとうございます。今、河原シンスケさんのお名前が出たんですが、パリにアトリエを構えておられますね。そこでシンスケさんのアトリエが、世界中から観光客を集めるような、すごいアートな活動を展開しておられます。丹後ちりめんというのは着物、和装ですが、松本理事長は、ちりめんの文化や伝統から、新たな芸術を生む力になる方法をシンスケさんに見られたのかなという気がしまして、大いなる発展が期待できると思います。では、今井さん、お願いします。

○今井一雄 シンスケさんがデザインされた天橋立ワイナリーのワインのラベルが、ウサギの柄になっておりますので、またぜひ見てやって頂きたいと思っております。

本当にこれから「食の観光」というのはものすごく大事だと思うんですね。ですから、しつこいんですけど、やはりミシュランガイドブックに何とか、もう一つの京都という形で載せていただいて、京都の食を盛り上げていただければ、大変ありがたいと思っております。

もう一つ、私は天橋立を世界遺産にするということで運動をやらせていただいています。これの大きな目的は環境です。この地域は環境でも先進地にならなきゃならないと思って

おります。今度、モンサンミシエルと調印をさせていただきましたけれども、モンサンミシエルの湾は、干満差が13メートルあります。天橋立は30センチです。もし、この天橋立で13メートルもあれば、天橋立は一瞬にしてなくなっちゃうわけです。それが今、保たれている。モンサンミシエルの市長もしつこく「なぜここは、こんなに海水が動かないんだ」という質問をされました。まさに「我々が一生懸命守っているからです」と言わせていただきましたけれども、天橋立を世界遺産にするのは、やはり我々がこの地域の環境を守っていかなくちゃいけない。地域を守るといふことの象徴的なものとして、たいへん大事であります。

先日も、反町隆史さんが丹鉄に乗って天橋立を見るという番組がありまして、いろいろな反響がありました。行けども行けども山の中、人はいないという会話の中で、だけどいいねという、天橋立を見た途端に拍手をしてもらいました。やはりそれは、この地域の魅力だと思っています。まだまだこれからも、より一層、この地域の環境を整えていって、多くの方に感動を届ける場所にしていきたいと思っています。そして、この地域のおいしい素材のものをしっかり食べていただいて、この地域のファンになっていただく、ということが大変重要だと思っています。ぜひとも御協力の方をよろしくお願い申し上げたいと思います。

○宗田好史 ありがとうございます。地域づくりというのは、環境も大事です。それからいろんな魅力が大事ですが、おっしゃったように、おいしさが大事です。環境を守り自然保護、あるいは歴史文化を残していくと、食のおいしさが出てくる。そのおいしさと環境の正しさというものが、美しい国土をつくり、環境と食と、そして景観というのが密接に関わるということが、モンサンミシエル含めて世界中で指摘されていることだろうと思います。

最後になりますが、知事から、皆さんへの御希望などはいかがでしょうか。

○西脇知事 ミシュランの話はあれなんですけど。丹後半島、この3年間で観光客は539万から595万人に、外国人観光客が22,000人から41,000人になりました。ただ、京都市内には5,000万人以上の観光客が来てまして、今年の課題は、京都市域に集中している観光客を京都府の北部に分散させることです。首都圏とか海外にPRするのはお金がかかりますけれども、京都市内までは来てますから、ラスト・ワンマイルじゃないですけど、それを持ってくる努力をしようということです。

松本理事長からプロデュースの話がありましたけれど、フランス人に天橋立とか景観と

かいろいろ説明しても、ふうんと言うんですけれども、ビーチだと言うとすごい関心を持って1泊でも2泊でもしていくと。これ言い方だけです、と言われたんですけれども、そういう滞在型の旅行客を増やすために、どういうふうにしていくのが非常に大事だと思っています。

それから「日本沈没」、思い出しました。そういえば、丹後半島が最後まで残ると書いてあったなど。知事になると思わんと読んでましたので、もう1回読んでみたいと思います。

今、京都市内でレンタルの着物をきてる人、いっぱいいます。着物サミットのときに賛否両論がありまして、「何やあの着方は」とか「季節感ないな」とか「色おかしい」とか言ってるんです。でも着てる人は、強制的に着ているわけじゃなくて、喜んで着てるわけなんですよね。いずれもっと本物志向になるかも知れないので、なるべく、そういう人も私は大事にすべきじゃないかなと思ってまして。またこれは、松本さんに御意見賜りたいと思います。

○宗田好史 ありがとうございます。中国のお客様が京都にたくさん来て、簡易宿舎とかホテルとかレストランを経営して、中国人のお客様をもてなそうとするんですが、いろいろ批判もあります。ただ、その方たち中国人は、日本が大好きなんです。特に京都が好きなんですよと。やがて、丹後が好きなんですよと言ってくれる人が出てくればいい。ただ批判的に見るのではなくて、もうちょっといい着物を御紹介し、いい場所、おいしいものを紹介し、リピーターとして、日本人と同じように京都や丹後を楽しめるような流れを少しずつつくっていくのがいいのではないのでしょうか。それを京都から丹後へ広げていただくのが仕事だということをおっしゃっていました。

それから、宮津湾がリヴィエラ、それから伊根はアマルフィのような、世界中の人々があこがれて訪れる町にすればいい。そうすれば、京都に来る世界中の観光客が、北部にもちゃんと来てくれるというように思います。

丹後広域振興局で、地域振興計画をこれから地元の皆さん方と一緒につくっていくという取り組みが始まっています。そのときに海・食・景観・文化というものを大切にしながら、西脇知事の御指導のもとに、いい丹後地域を若い人たちの力でつくっていくというのが見えてきたのではないかと思います。

それでは、もう時間が迫っておりますし、知事も次の予定がありますので、この辺で終了させていただきたいと思います。どうも御清聴ありがとうございました。

○司会 宗田先生、そしてパネリストの皆様、ありがとうございます。それでは、最後に西脇隆俊京都府知事から、本日の府民意見交換会in丹後を締めくくるに当たりまして、一言、御挨拶をいただけますか。

○西脇知事 どうも、今日は集まっていただきまして、ありがとうございました。コーディネーター、パネリストの皆さん、時間が少なくすみません。いつも思うんですけど。ただ、我々としては、この場だけじゃなくて、皆様にインターネットも含めて、御意見を聴取するつもりでおります。丹後地域は、話を少し聞くだけでもポテンシャルがすごくあると思っています。いい計画となるように、なるべく多くの意見を吸収して、がんばって策定の作業をしたいと思っております。引き続きの御支援、よろしく申し上げます。今日はどうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。

以上をもちまして、西脇知事と行き活きトーク、平成30年度府民意見交換会in丹後を終了とさせていただきます。

多くの皆様、御参加いただきまして、誠にありがとうございました。